

泉州国際市民マラソン 第13回大会 2006年(平成18年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 13th CONVENTIONS



2月19日 日

天 候: 曇り
気 温: 9.5℃
参加者数: 2,851人
完走者数: 2,223人
沿道人数: 23万人



一斉にスタートするランナー

第13回大会は気温9.5度、湿度48%、風速0.7mと好条件の泉州路を2851人がそれぞれの感動的な思いを込めて走り抜いた。登録男子は招待選手で初マラソンの塩塚慎吾(山陽特殊製鋼)が2時間21分23秒で優勝した。途中競り合った宮里康和(信太山自衛隊)は35秒差で2位だった。塩塚は一時トップの中国選手に1分以上差をつけられていたが、冷静な走りを見せ32km付近で抜き去り、初マラソン初優勝に輝いた。一般市民の部は豪州のリビングストーンだった。女子はマラソン姉妹提携しているゴールドコーストマラソンから招待されたヘレン・スタントン(豪州)が2時間52分54秒で初優勝を飾った。登録女子の1位は大阪教育大ACの岡田寿美が後半、粘りの走りを見せて2時間58分09秒でフィニッシュした。

今回は、シドニー五輪銀メダルのリディア・シモン(ルーマニア)と五輪日本代表の犬伏孝行(大塚製薬)の参加で期待されたが共に途中棄権した。期待して待っていた観衆には残念なことであり、今後の招待選手のあり方に課題を残した。

資料について思うこと

記念誌執筆のための資料を整理していたとき、第1回大会を始める準備段階の「趣意書」や会議資料、新聞記事などが出てきた。これに紛れて大会を終えたあとの反省をも含む個人的な「私見」が出てきた。20年前のものであるが、よくぞまあこの大会をやったものだと思ひきりで、それぞれの組織のまとまりの難しさを痛感している内容であった。イベント開催の多岐にわたる難題があればこれと泉が湧き出すかのように現れ、深夜日付が変わるまで議論したこともあった。各市町の連合組織を束ねることの労力は計り知れないものであった。しかし、それぞれの組織の中でそれらを整理していく人がいるもので、組織の中では必ずリーダーが存在し、各々は個人の技量の範疇で得意分野が発揮されるものだと思ったのである。つまり個人が自分の自覚に基づいてポジションが決まり作業が進むものだと思われたのである。まさに、与謝野晶子の

「劫初より つくり営む殿堂に
われも黄金の釘ひとつ打つ」

の心境であったに違いない。つくり上げる殿堂（泉州国際市民マラソン大会）にそれぞれが苦勞して釘を打つことに励んだものであるが、その「釘」が黄金であったかどうかが問題である。

そこで「私見」であるが、現在の大会が20年前の願望や希望、目標に近づき、多くの部分で解消されていることに驚いている。

2006年(平成18年)1月31日付朝刊

犬伏、シモンら招待

泉州国際市民マラソン

2月19日に行われる泉州国際市民マラソン（読売新聞大阪本社など後援）の招待選手が30日発表された。男子は、犬伏のほか、2001年北海道マラソン優勝の佐々木勉（旭化成東芝）、銀保持者の犬伏孝行（大塚）、02年日本海マラソン初着の製菓「らう人」女子は26日の大阪国際女子マラソンに出場したリディア・シモン（ルーマニア）、嶋原清子（セルビア）ら3人が招待された。

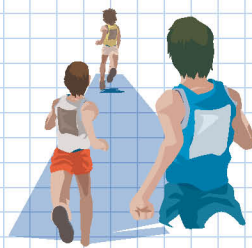


各種マラソン大会優勝経験者が出場。嶋原清子、小森智也（ともに山陽特殊製鋼）両選手は初マラソンに挑む。10kmをボストンマラソン優勝の山田敬蔵（松下電器）も元気を奮を掲げる。

スタートを待つシモンら招待選手



2006年(平成18年)
2月19日付朝刊



シモン選手も市民と走る 泉州マラソン きょうスタート

約3000人の市民ランナーが泉州路を駆け抜ける。ゴールのりんくう公園を目指す。

当日は午前11時、堺市の浜寺公園をスタートし、府道阪南線（旧国道26号）を東南海の堺井浜口交差点まで南下、ゴールのりんくう公園を目指す。



沿道から力走する選手に応援を送る人ら

「第13回泉州国際市民マラソン」（読売新聞大阪本社、読売テレビなど後援）が19日、堺市から泉南市にかけての42・195kmで開催される。18日には泉佐野市のホテルで開会式が行われ、特別参加のシドニー五輪銀メダリストのリディア・シモン選手（ルーマニア）や特別招待選手で、昨年の東京国際女子マラソン2位の嶋原清子選手（資生堂）ら約400人が出席した。

泉州国際市民マラソンに寄せて

高石市長 阪口 伸六



泉州国際市民マラソンが1994年の関西国際空港竣工を記念に開催され、今大会で20回目を迎えられること心からお慶び申し上げます。

いまや、毎年3000人のランナーが早春の寒い中、泉州地域を駆け抜け、「泉州地区の活性化・国際化」と「広域行政の推進」に大きな後押しとなっていますこの一大イベントが、幾多の困難を乗り越え、ここまで回数を重ねることができたのも、歴代の大会役員をはじめとする本大会開催にご尽力賜りました関係者皆様方のおかげであると改めて深く感謝申し上げます。

昨今、少子高齢社会の到来を迎え、「健康長寿

社会」の構築を目指し、老若男女を問わず筋力づくり、健康増進が求められています。

本市におきましても、「第4次高石市総合計画」を策定し、「市民主体のやさしさと活力あふれる“健幸”のまち」を目標に、国の総合特区にも指定され、「健康づくり教室」やウォーキングロードの整備を推進しており、健康であることが幸福につながる「スマートウェルネスシティ」を進めています。

そういった点からも、幅広い市民参加に重点を置いた同大会の開催意義はより一層重要になってきており、今後30回、50回と益々継続・発展されますことを心よりご祈念申し上げます。

結びになりますが、今後とも本大会の開催にご尽力賜ります関係者皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げましてお祝いの言葉といたします。

給水ステーションで頑張るボランティア



市民ランナー最高齢で完走した小松清孝さん

沿道でドリンクを手渡す
佐野高生徒ら



スタート前 ストレッチで身体をほぐす

5万7千人の足跡

この記念誌に泉州国際市民マラソンを完走した参加ランナーの全記録を記載するとすると5万7000人以上の膨大な数に及ぶ。そこで編集委員会で意見されたのがDVDの収録であった。当初すべての氏名と記録を活字として記載する案もあったが記録のページが100ページを越えることになり無理があった。

時代の流れであろう、収録はCDなどパソコンが最も適していることを指摘してくれたのが若い委員であった。それに、20年の歴史をまとめて映像で残せないものかを検討し、(株)テレビ岸和田によってダイジェストであるがコンパクトに制作してもらうことになった。このDVDは実に感動的な作品であり、記念誌に写真や活字で記録できない動く歴史を添付することができたことは喜ばしいことであった。

「泉州国際」2時間21分23秒

塩塚初マラソンV

女子はスタント制す

陸上 泉州国際市民マラソン(19日・大阪府堺市浜寺公園―泉南市りんくう公園42.195km) 国内初の招待選手を各々8人(男子4人、女子4人)が参加して行われ、翌は特別招待選手で初マラソンの塩塚慎吾(山陽特殊製鋼)が時間21分23秒で優勝した。女子は大会主催提携している泉州ゴールドコーストマラソンから招かれたアン・スタントン(オーストラリア)が54分51秒で優勝を飾った。シドニー五輪メダルのリディア・シモン(ルーマニア)と同年日本代表のオ・シモン(大塚製薬)はともに途中棄権した。スタート時の気温は曇り、気温9・5度、湿度45%、北東の風0・7m/s。

展開読んで逆転。〇：初マラソンの塩塚が、冷徹な展開読んで男子優勝をなげ寄せた。一時はトップを走っていた中国選手ト付上の差トンは、40.5km過ぎに首を痛めた。塩塚は「相手は走っているのに気付いた瞬間に、ペースを崩さずに32.5km過ぎに抜き去り、逆走していた宮里(大阪)・信太(山陽)も突如として、一万歩のスタートは54分51秒、故に少なくて練習量を積み重ねた塩塚には及ばなかった。

めろの強み、21歳の若手が、太な自走手に入れた。〇：学を制したスタントンは、40.5km過ぎに首を痛めた。塩塚は「相手は走っているのに気付いた瞬間に、ペースを崩さずに32.5km過ぎに抜き去り、逆走していた宮里(大阪)・信太(山陽)も突如として、一万歩のスタートは54分51秒、故に少なくて練習量を積み重ねた塩塚には及ばなかった。

最高齢78歳の山田敬蔵さん
ゴールし笑顔を見せる



高石ともやさん(フォーク歌手)
完走し補助員に運ばれる



後半戦いコースは中継として、風邪と体調が走りに支障をきたした。結果は満足と笑顔で振り返った。シモン「21分付近で途中、来年大阪で開催される世界選手権で、ぜひともいい走りをしてこのお礼をしたい」



マラソン初挑戦で優勝した塩塚

2006年(平成18年)
2月13日付朝刊

優勝 第13回大会

男子

山陽特殊製鋼
塩塚慎吾

女子

オーストラリア
ヘレン・スタントン

